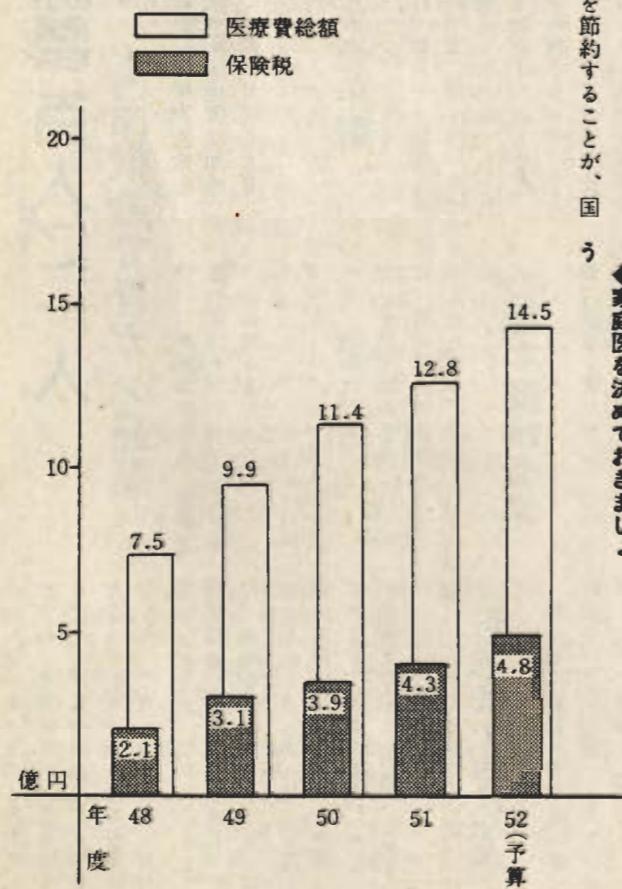


左下のグラフは、四十八年度から五十二年度（予算）までの医療費と保険税の変化を、あらわしています。

医療費の伸びを反映して、国保税も上昇を続けています。今年も二月一日から、医療費が平均九・六%値上げされて、苦しい国保の台所は、深刻な状態になっています。

になってしまいます。国保会計から支出する医療費がふえれば、収支のバランスをとるため、保険税を増額せざるを得なくなります。

医療費と保険税の年度別推移



ふ
える

ようになつたこと、慢性的の病気が、などで、医療費はなどと申します。

前ページでは、国保の仕組と給付について述べました。ここでは、医療費の伸びと保険税が、どんな関係にあるかを見ましょう。

した。それが昭和五十一年度では、十二億八千二百万円、一世帯当たり十四万三千円、一人当たり四万八千円になりました。

医者のかかり方

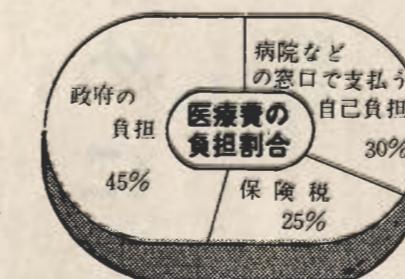
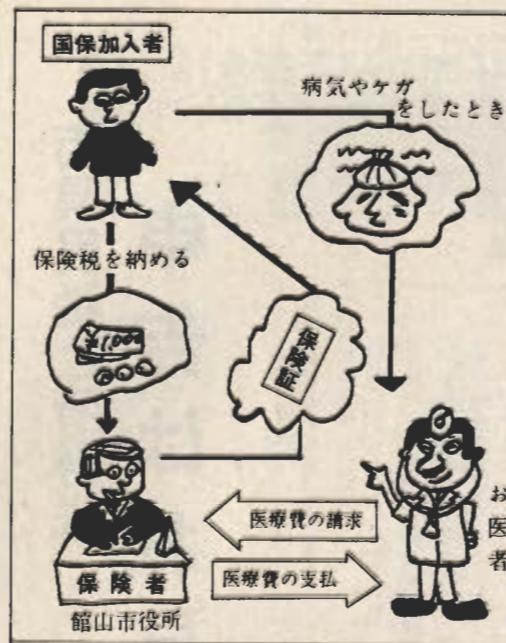
◆医者を信じましょう
一度医者を決めたら、その人を信用してすべてをまかせましょう。「どうもあのお医者さんのやることは、ふにおちない」などと疑つていては、治る病気も治らなくなります。
医者を信頼した上で、どうしても納得できなければ、遠慮せずに「どこそこで意見も聞いてみたいから」と言って、転医することも、やむをえません。

◆早期発見、早期治療を心がけましょう
病気は、早いうちに発見し、早く治療することが理想的です。市で実施している集団検診の機会を、積極的に利用してください。

◆家庭医を決めておきましょう
一度家庭医を持つことは、大切なことです。
家庭医に見てもらい、むずかしい病気のようだつたら、専門医や大病院を紹介してもらうことが良い方法です。

そのためには……。

国民健康保険制度は、病気やケガのとき、私たちの経済的な負担を軽くするため、収入に応じて保険税を出し合い、国の補助と合わせて医療費に充てようという「相互扶助」の仕組みです。しかし毎年伸び続ける医療費に、国保会計は非常に苦しくなっています。給付内容の充実と、医療技術の進歩は、医療を受ける被保険者の方には幸いです。しかしそのためには支出も増加するので、来年度は保険税を増額しなければならない見通しです。



國保の
しぐみ

私たちが病気やケガで、医者にかかるとき、窓口で支払うお金は、医療費の三割です。残りの七割は、保険税と国の補助金で負担しています。この費用が今年度は、毎月八千五百万円くらいです。

みなさんから納めてもらう保険税と国の補助金は、市役所が運営しています。これを国保会計といいます。国保税額は、私たちが医者にかかった医療費を基準にして、国保会計が赤字にならないように算出します。

- ▼その他の給付／次の①から⑥の
のような場合は、あとで必要書類をそろえて、保健課に請求すれば、国保で定めている基準額の七割を、お返しします。

①旅行先での病気や緊急の場合などで、やむをえず保険証で治療できなかつたとき

②看護の費用

③移送の費用

④ゴルセツツなど治療材料代金

⑤骨折やねんざで、接骨院で治療したとき

⑥治療上マッサージや、はり、きゅうが必要なとき

ただし②から⑥までは、保険医が認めた場合に限ります。

■3月19日館山駅前で献血が行われます。ご協力ください。

苦しい国保の台所 上昇一途の医療費

▼高額療養費の支給／医療費の負担するほか、次のような給付事業をしています。

